武蔵浦和の新しい顔「サウスピア」誕生

平成25年1月4日（金）、JR武蔵浦和駅周辺の再開発地区の一角に、さいたま市の複合施設「サウスピア」がオープンします。どのような施設があり、どのように工夫されているのかご紹介します。

サウスピアはこんなところ

「サウスピア」は、武蔵浦和駅西口のロータリーに面しており、1～9階に南区役所、図書館、子育て支援センター、コミュニティセンター、シニアふれあいセンターが集結します。館内全体に区の花「ヒマワリ」のモチーフがあしらわれています。

武蔵浦和コミュニティセンター（8・9階）

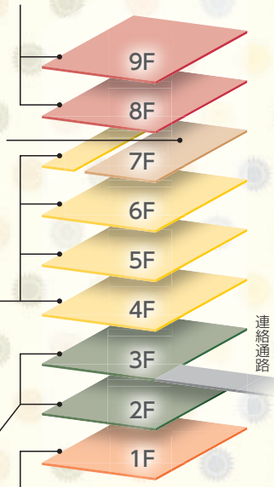
8～9階のコミュニティセンターには、集会室、防音構造の音楽室やレクリエーションルーム、多目的ホールなどがそろいます。多目的ホールは階段状の客席を壁面に収納でき、フラットな空間としても活用できます。

シニアふれあいセンターサウスピア（7階）

これまで南区にはなかった60歳以上の方のための施設です。多目的室、集会室、ホール、陶芸用の窯などがあり、趣味や娯楽を楽しめます。健康相談をすることもできます。

南区役所（主に4～7階）

現在地の武蔵浦和駅東側から移転し、4～6階と7階の一部に入ります。フロア中央に吹き抜けを配した、明るくゆったりした空間です。



武蔵浦和図書館（2・3階）

2～3階は図書館です。入口は3階だけにして、2階への移動は専用エレベーターを設けるなど、他の施設から独立させ静かに利用できるよう配慮しています。

子育て支援センターみなみ（1階）

南区初の単独型子育て支援施設です。3歳未満の子どもとその保護者が利用できます。事前登録制で子どもの一時預かりも実施します。

▲駅の改札階から図書館のある3階まで、バリアフリーのデッキで結ばれています。中の様子がわかりやすいよう、1～4階の東西面はガラス張りにしています。

サウスピアのこだわり

「サウスピア」では、より多くの人が利用しやすいよう、ユニバーサルデザインに配慮して、安全性や利便性を高めるためにさまざまな工夫をしています。また、自然エネルギーの有効活用や建物の熱負荷低減など、エコへの取り組みも行っています。

便利・快適

建物に入ると、文字や記号が大きく見やすい案内板が目を引きます。区役所は黄色、図書館は緑など施設ごとにテーマカラーも決められ、各フロアにはそれぞれの色が効果的に用いられています。床は静音性を備えながら、車椅子でも動きやすいカーペットを採用。多機能トイレや授乳室も各施設に設けられています。

▲エレベーターホールの案内板も文字が大きく、行き先が一目でわかります。

▲大きな文字とテーマカラーの赤が、利用者を誘導するコミュニティセンター。

▶壁一面がガラス張りで見晴らしのよいレクリエーションルーム。

エコ仕様

▲屋上の緑と太陽光パネル。3階ロビーにモニターがあり、発電量を確認できます。
◀4階の区役所ロビーから望む吹き抜け。温度を感知して自動的に窓が開閉する換気システムを採用しています。

「サウスピア」は、4階から屋上にかけて建物中央が吹き抜けになっています。吹き抜けを通して自然光を取り込み換気を行うことで、照明や空調コストの削減を図ります。屋上には太陽光パネルを設置し、発電した電力を施設内で使用します。また、建物の熱負荷を低減させるために、屋上や壁面の緑化、西日を和らげるルーバー設置なども行っています。

なるほど！ 武蔵浦和駅周辺のまちづくり

さいたま市は、市の南玄関にあたる武蔵浦和地区を副都心のひとつに位置づけ、都市基盤整備を進めています。武蔵浦和駅周辺の開発は昭和59年からスタートし、これまで東口駅前広場など数エリアの整備が完了しています。サウスピアが位置するのは、UR都市再生機構が施行する駅西口周辺の第1街区と呼ばれるエリアです。西口駅前広場や環状道路の整備、共同住宅の建設なども行われています。

都市機能をまとめる
公共施設や商業施設、住宅などを集約し都市機能をコンパクトにすることにより、持続可能なまちづくりを目指しています。

＋

UR・民間事業者と連携
事業を円滑に進めるため、実績と信頼性のある民間事業者等と連携しています。それにより資金面でのメリットも得られます。

問合せ　浦和西部まちづくり事務所
☎861-5905